

科目名	LD等教育総論（重複・LD等領域）					単位	2.0
担当教員	繁昌 成明						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	3	授業番号	2270

●授業のテーマ

特別支援教育における軽度発達障害児への教育支援

●到達目標

LD等教育の基礎知識を学び、発達経過と障害特性に対する個別支援を行う基礎力を身につける。

●学習内容(授業概要)

近年、これまで検討されてきた特別支援教育構想が、現実の教育体制へと具体化され特別支援教育の実現へと進められてきた。これは、これまでの特殊教育において対象としてきた障害種別を広げ、通常学級に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症、情緒障害、言語障害等を含めた教育実践を行なうという教育環境調整と具体的な支援方法についての更なる充実を図るという変革であるといえる。

特別支援教育が目指しているものは、障害をひとつの個性を持つ状態として捉えることで、個々人が必要としている特別な教育的ニーズに応じた教育支援を行なおうとしているといえる。従って、個別的教育支援に対する期待は高まり、多様なニーズに対する支援計画が必要となり、より専門的な知識を持つことが教育実践にとって不可欠となる。

本講義では、発達障害児療育（治療・教育）活動を実践している立場から、LD等教育論を展開していくことにする。特別支援教育の対象となる子ども達は、乳幼児期より何らかの兆候を見せながらも、家族の発達に対する思いや生活環境、様々な対人面での関係性のあり方によっても、様々な発達の様相をみせるために、決して一まとめの対応で支援すればよいというものではない。従って、これらの学校現場における教育支援は、発達障害の乳幼児期からの発達特性、診断までの道のり、両親への障害告知、幼児期の療育経過、就学・進路問題についての両親の心理的葛藤等にまで配慮できる基本的な知識が必要とされると考える。

共に生き、共に考え、共に学ぶ環境を校内連携の視点で作し、医療・療育・福祉等の専門機関との連携を図っていけるような特別支援教育・教育論について学んでいく。

●学習内容(授業計画)

1. 特別支援教育が始まるまでの道のり
2. 発達支援と学校教育
3. 発達障害とは何か
4. 発達障害の診断と告知について
5. 乳幼児期の発達と乳幼児健康診査
6. LDの診断と特性
7. ADHDの診断と特性
8. 広汎性発達障害と高機能自閉症の診断と特性
9. アスペルガー症候群の診断と特性

10. 軽度発達障害、情緒障害及び言語障害の診断と特性
11. 発達診断法（発達検査と知能検査）と心理特性について
12. 特別支援教育と保護者との連携の重要性（信頼関係の樹立）
13. 個々の発達状況に合わせた教育計画・個別指導計画
14. 軽度発達障害教育論
15. 発達障害者支援法：ライフサイクルを見据えた教育論

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回の授業ごとに、関心のある事項について下調べをすること。

事後：毎回の授業で学習したキーワードを書き出しておくこと。

●成績評価方法・基準

発表・討論 60%、レポート 40%

●テキスト（必携）

特に使用しない

●参考文献／その他

随時資料頒布

●履修上の注意

自発性と共に学び合う意識を持つこと。